





医療安全管理室

医療における安全と質の向上に向けて
活動しています




2022年度 オープンホスピタル 

京都大学医学部附属病院 看護部：医療安全管理室担当



医療安全管理室の主な活動

- 医療事故発生時の初動対応と事例調査
- 医療安全管理マニュアル・指針などの見直し・改訂作業
- 各部門からのインシデントレポートの収集と、サーベイランス・分析・対策立案と周知
- 医療安全に関する部門連携・委員会活動（転倒転落事故防止ワーキンググループなど）
- 職員への医療安全教育



医療事故発生時の対応

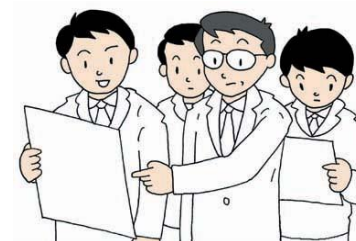
医療安全管理室は、初動対応と事例調査を行い
事故報告書の作成や公開を行います。

患者さんに有害な事が起こったときは・・・

- 医療技術を集結して治療に当たり、部門横断的に最善を尽くします。
- 患者家族に遅滞なく事実を伝え、責任をもって治療・原因究明・再発防止に取り組むことを説明します。
- 病院としての最善の対応が行われるように様々な調整を行います。



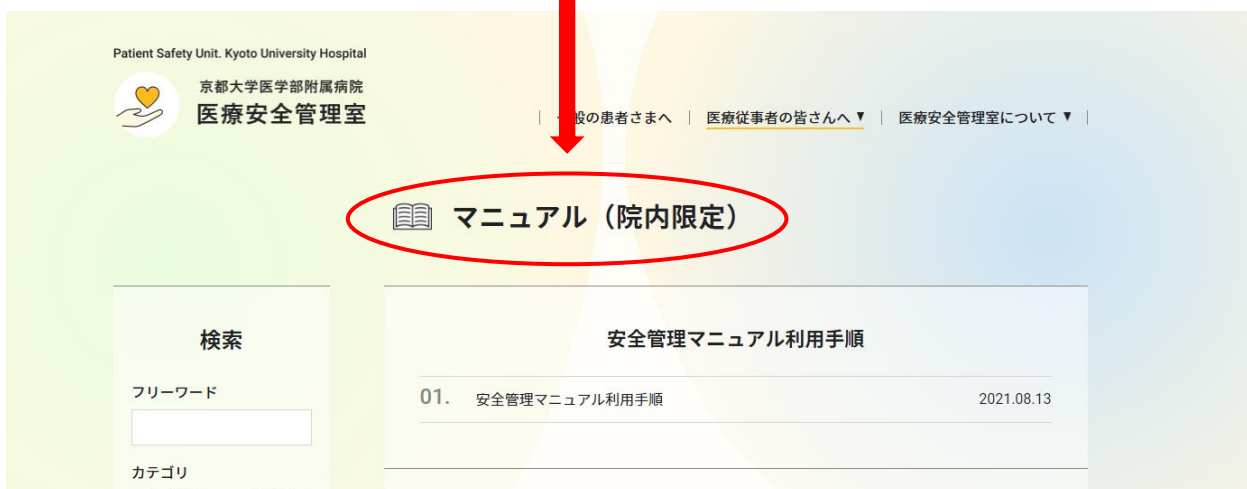
場合によっては・・・
他病院の医師や専門家を含めた事例調査会を開催し、原因究明と再発防止に向けた対策を検討します。



調査報告書を作成し、事例によっては、公開を行います。

各種安全管理マニュアル・指針などの整備

電子カルテ（Web版）



携帯版

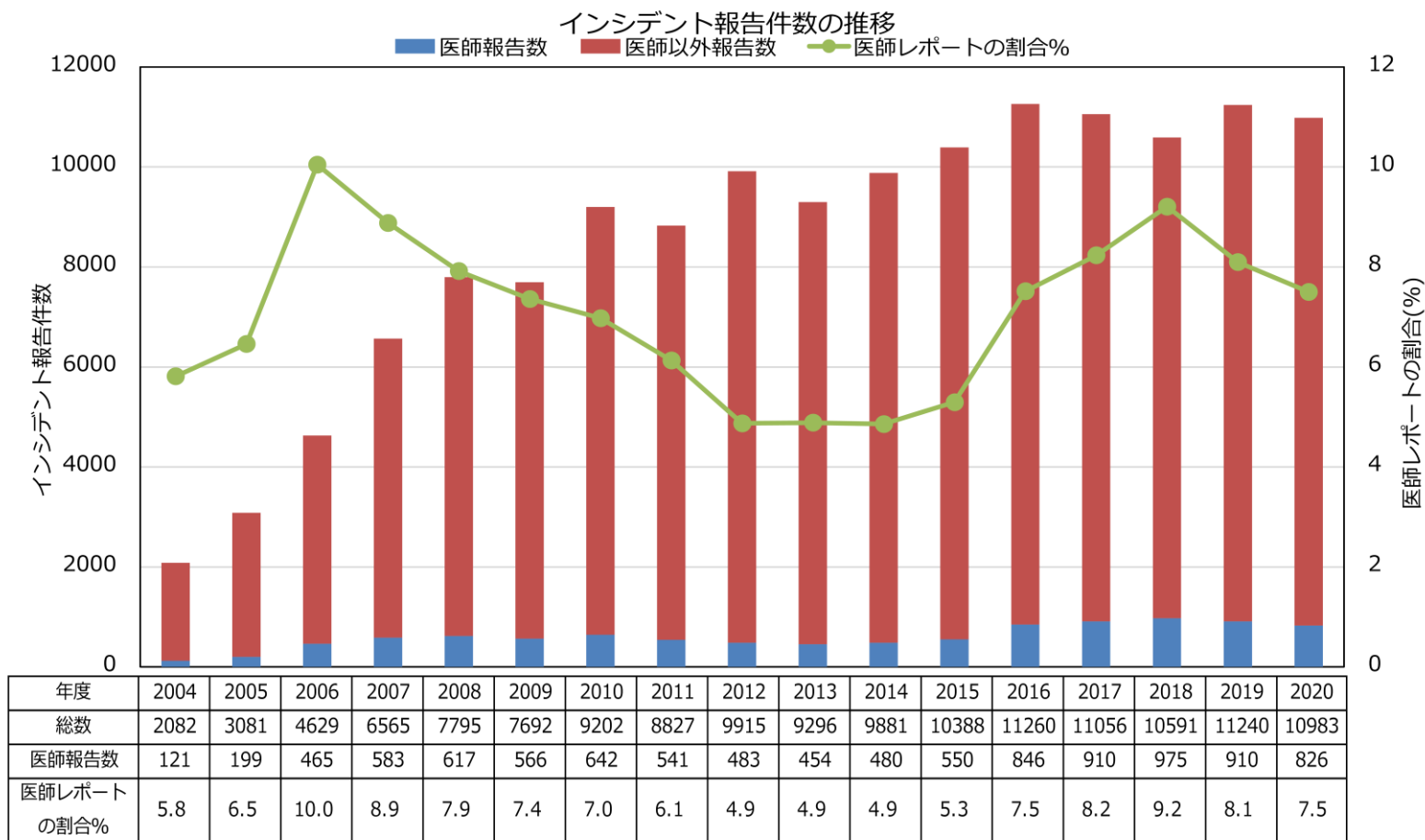


職員全員がポケット
に携帯しています

- 新しい治療・検査や業務手順を変更した場合などは、関連部署と相談しながら随時改訂しています

インシデントレポートとは？

医療現場では、誤った医療行為を実施してしまったり、実施しそうになるといったミスが発生することがあります。私たちは、このような出来事を「インシデント」と呼び、ミスが発生したとき、ミスを起こしそうになったときには、インシデントレポートを提出します。



リスクマネージャーとは？

医療現場における医療事故問題について中心的な役割を担う担当者です。

リスクマネージャーは、医療現場における安全策の遂行並びに関係委員会等の連絡調整を行います。



- それぞれの職種・部署ごとにリスクマネージャーがいます
- リスクマネージャーは、以下のバッジをつけています



医療安全小委員会（ミーティング）

提出されたインシデントレポートのうち

- 重大なインシデントレポート
- レベルは低いが放っておくと重大事故に繋がる恐れのあるもの 等
を選択し、週1回、医療安全小委員会で内容を審議しています。



⇒ 対策が必要と判断された事例は、対応を開始します

その他、医療安全活動 ①

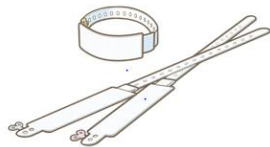
患者誤認防止対策

- 病院全体で取り組んでいます



お名前をフルネームで
教えてください

名乗らせ確認



リストバンド装着



照合端末による照合

転倒・転落防止対策

- 病院内での転倒・転落を減らすために活動しています

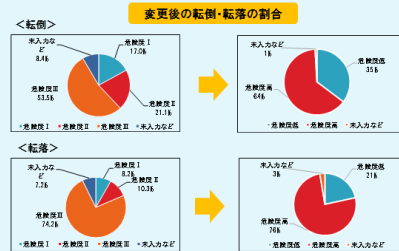
例) 転倒転落アセスメントスコアの見直し
例) 転倒転落防止情報の発行

転倒転落防止情報35

転倒・転落アセスメントシートを簡便化

2020年度から、転倒・転落アセスメントシートの項目と判定を変更しました。

【転倒・転落アセスメントシートの変更点】
・アセスメント項目：「頻尿」「日常生活に影響を及ぼす視覚・聴覚障害か疼痛がある」を削除、「判断力」「理解力」を1つのまとめました。
・判定：危険度「Ⅲ」→危険度「高」、危険度「Ⅱ」「Ⅰ」→危険度「低」としました。
危険度Ⅲ：常時診断・判断能力低 危険度高：常時診断・判断能力高
危険度Ⅱ：10日ごこコスト評価 危険度低：計画立案はしない、ただし、状態変化時および30日ごこコスト評価



アセスメントの労力を減らしましたが、
転倒・転落防止対策への影響はありません!!

2021年5月 医療安全管理室

転倒転落防止情報36

歩行介助時の転倒どう防ぐ？

転倒防止対策としてよく耳にする「歩行介助」
せっかく歩行介助していても転倒する事例が散見されます。
みなさんは、どのように付き添って歩いていますか？

理学療法士に学ぶ！歩行介助のポイント
介助歩行が必要ということは、いつ転倒してもおかしくない状態ということ。
いざという時に支えられるように、身体の一部に手を添えておきます。



転倒しそうだ！ どうやって支える？ どうやって負傷を防ぐ？



支えきれなくても、このままゆっくりと腰を下ろすと、患者さんの負傷を防ぐことができます。
転倒転落防止情報36に引き継ぎ情報を発行しています。 2021 医療安全管理室・リハビリテーション部

その他、医療安全活動 ②

医療安全ラウンド

2021年度は、薬剤部と合同でラウンドを行い、各部署の医薬品安全使用について確認しています。

- 医薬品安全使用のための手順書に沿って管理されているか
- 注射薬と消毒液の保管場所が区別されているか
- 医薬品の保管・管理状況、など



リスクマネージャー・メールマガジンの配信

コロナ禍でリスクマネージャーと対面する機会が減っており、コミュニケーションの一環としてメールマガジンを月に1回程度配信しています。

KU:P

京大病院 医療安全管理室

リスクマネージャー・メールマガジン

2021/9/6 発行

京大病院 リスクマネージャーのみならず、こんにちは。医療安全管理室のホームページを新しく改訂しました。URL も変わりました。
<https://safety.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>
 今回は、データ分析のお話です。

項目：

1. データ分析することの意義
2. 今後のPDCAサイクルの展望

1. データ分析することの意義

京大病院の医療安全管理室のホームページは、2011年4月に現室長が専任。その翌月から運用開始しました。今回のホームページ改訂で3回目になります。

ホームページを作る目的は、「医療安全管理でニュース」を効果的に管理するため。それまでは印刷物のみ。印刷物の集積作業が必要でした。それで差し替え忘れや印刷ミスも起こりました。また、一度、作らないうちに更新し、結果として、見直しの障壁に。

Web上でアクセスできること、院内の電子カルテシステムからアクセスできること、この仕組みがあれば、上記の課題は解決できると考えました。マニュアルだけでなく、医療安全ニュース、私的転用防止ニュース等、様々な情報も私たちがホームページに載ります。10年間の医療安全ニュースを見直し、当時の状況から、今は、改訂したことが分かります。一人ひとりの努力で、変わっていることを感じます。

ところで、マニュアルはどの程度読まれているのか、それが分れば、職員に使われているマニュアルや使用頻度が少ないマニュアルが分かるので、活動の参考になるか...と考えました。

そこで、新しいホームページでは、Googleアナリティクスを導入しました。

放射線部門や内視鏡部門のマニュアルは参照されるマニュアルの上位です。

マニュアルの標準は、「通知を形式知に！」
 マニュアルを作る過程で、最適化する作業が優先します。なにか変わっているだけで、明確に分かっていることが求められます。関係職種が話し合うことで、業務工程が完成されています。

使用頻度の高いマニュアルは、それだけ必要で、求められているということ。使用頻度が低かったり、全く使われていないマニュアルは見直しの対象です。

<要らないマニュアル>を捨てる(=整理する)作業をするには、整理対象を特定することが必要です。Googleアナリティクスを活用してみたいと思います。

私たちの日常業務の中でも、やらなくてよい業務がありませんか？
 本当に必要か？を判断するためには、現状の分析が必要です。

2. 今後のPDCAサイクルの展望

京大病院の職員の皆様にはおなじみのPDCAサイクル。
 Plan→Do→Check→Act→Plan...です。よほ。

今回のホームページ改訂は、
 Plan: 分析ツールを使って、人々の関心の高いコンテンツを作る
 Do : 分析ツールをホームページに実装する
 Check: このコンテンツに興味・関心が大まかに評価する
 Act : ホームページのコンテンツを見直すかどうか判断

意外と院内からのアクセスが多いことが、今回の分析による発見です。北海道から九州まで、各地からのアクセスがあります。

また、もうひとつ、京都大学病院からは、「ダブルチェックの見直し」や「ダブルチェック確認からの脱却」を推進しているのですが、その情報へのアクセスは非常に高いです。

その他、医療安全活動 ③

医療安全管理室レターの発行

2020年度に開始した取り組みです。
職員皆さんに伝えたいメッセージを、病院内にポスター掲示しています。

いつも医療安全管理業務にご協力を頂きありがとうございます

医療安全管理室 LETTER

テーマ 「良かれ」の落とし穴

事例

輸液持続投与中の患者。医師から輸液の組成の変更と、流量変更の指示があった。指示を受けた看護師がしつうなため、他看護師が代わりに輸液更新を行った。次勤務者の看護師に、輸液流量が違うと指摘があった。

あなたが大切に行動していたくおかげで大切な患者さんの命が守られています。京都大学病院が一体となって一層安全・安心な医療を提供していきましょう。

良かれと思ってやったことが、思いもよらない結果となることがあります。相手に言葉で伝え、情報共有することが大切です。

医療安全管理室 2022年6月発行

いつも医療安全管理業務にご協力を頂きありがとうございます

医療安全管理室 LETTER

テーマ 患者安全への患者参加
～世界では医療安全を患者安全と呼んでいます～

WHO（世界保健機構）は、Patients for patient safety (PPFS)という活動を2005年から展開しています。

自分自身が受ける医療に積極的にかわりましょう。情報を得て、質問しましょう。あなたの声について医療者にしっかりと伝えましょう。

Be actively involved in your care. Be informed, ask questions. Provide full information about your medical history.

Speak up for patient safety!

2022年度は、医療安全に関連した聞きなれない言葉の意味や、是非知ってほしい情報をご紹介します。

安全文化を支える四つの文化
「報告する文化 学習する文化 公正な文化 柔軟な文化」

医療安全管理室 2022年6月発行

e-learningによる研修

全職員は、年2回以上の医療安全講習を受けることが義務付けられています。2020年度から集合研修を取りやめ、e-learningによる研修を行っています。

4. 本当にあった患者誤認の話 (13分間)

本当にあった患者誤認の話

2022.4

京都大学医学部附属病院 医療安全管理室
副看護師長

KU:IP



京都大学

詳細はホームページで見ることができます

https://safety.kuhp.kyoto-u.ac.jp/medical_news/?news_cat=news_cat3



Patient Safety Unit. Kyoto University Hospital



京都大学医学部附属病院
医療安全管理室

一般の患者さまへ

医療従事者の皆さんへ ▼

医療安全管理室について ▼

ニュース

全て

リスクマネージャーメールマガジン

京大病院医療安全情報

転倒転落防止情報

トピックス

リスクマネージャー・メールマガジン

京大病院 医療安全管理室

2022/6/29 発行

本誌は、医療安全の現状や課題について、医療従事者や患者のみなさまへお知らせする情報誌です。発行頻度は、毎月発行（毎月15日頃）となります。

医療安全管理室では、患者の安全や健康を第一に考え、日々医療の現場で起こる様々な問題を調査・分析し、その原因や対策について、医療従事者や患者のみなさまへお知らせしています。

※本誌は、毎月発行（毎月15日頃）となります。

※本誌は、毎月発行（毎月15日頃）となります。

※本誌は、毎月発行（毎月15日頃）となります。

いつも、インシデント報告ありがとうございます
2022.05.17

京大病院医療安全情報 134
【中心静脈用カテーテルの意図しない開放】

2022年4月、中心静脈用カテーテルに接続していたシュアプラグを、外したままとした事例が5例ありました。患者への影響はありませんでした。クランプが開いていた場合、空気の流入によって血栓塞を起す、逆流による大量失血、などの可能性があり大変危険ですのでお知らせします。

ブラッドアクセス用中心静脈用カテーテル
(遠隔用カテーテル)

クランプ閉じていた
シュアプラグが外れた状態

事例1 (イメージ写真)

PICCカテーテル
(中心静脈用カテーテル)

シュアプラグが閉鎖
シュアプラグが外れた状態
クランプ開いていた
大気に関接された状態

事例2 (イメージ写真)

事例1
間欠的血液透析をしている患者。ヘパリンロックを行うため透析用カテーテルを見たところ、シュアプラグが接続されていなかった。クランプは閉じられていた。

事例2
PICCカテーテルの確認を行ったところ、1つは昇圧剤投与に使用していた。残りのルートはシュアプラグが外れ、クランプも開放された状態だった。昇圧剤のルートには、シュアプラグが2個連続で接続されていた。

転倒転落防止情報36

歩行介助時の転倒どう防ぐ？

転倒防止対象としてよく耳にする【歩行介助】
せっかく歩行介助していても転倒する事例が散見されます。
みなさんは、どのように付き添って歩いていますか？

理学療法士に学ぶ！歩行介助のポイント
介助歩行が必要ということば、いつ転倒してもおかしくない状態ということ。いざという時に支えられるように、身体の一部に手を添えておきます。

腰折れしそうな(膝力低下のある)患者さんの場合

その1 脇の下に手を添える

その2 スポーンウェスト部分を持つ

左右へのふらつきが大きい患者さんの場合

真後ろに立つて肩に軽く手を添える


転倒しそうだな！ どうやって支える？ どうやって負傷を防ぐ？

その1 脇の下とスポーンウェスト部分をしっかり保持して身体を支える

その2 両肩に手を入れ、介助者の片腕に度々せるように支える

支えきれなくても、このままゆっくりと腰を下ろすと、患者さんの負傷を防ぐことができます。

転倒転落防止情報36に引継ぎ情報をお送りしています。 2021.7 医療安全管理室「リハビリテーション部」



これからも、

医療における安全と質の向上に向けて
活動していきます

